2018 年 6 月 4 日
愛知県立大学学術研究情報センター長
梶原克教

愛知県立大学長久手キャンパス図書館
図書館臨時企画展示　This Is America – 分断国家の過去・現在・未来

追加展示のお知らせ & ガイド

5 月 14 日から臨時企画「This Is America ―分断国家の過去・現在・未来」展を開始しました。これは 5 月 19 日公開の映画『私はあなたのニグロではない』と日本時間 5 月 6 日に公開された Childish Gambino による MV “This Is America”を受けて、アメリカ社会の成り立ちと現況を踏まえた未来へと学生の皆さんの好奇心を喚起し研究意欲を促すためのものでした。

幸いにも好奇心旺盛で勤勉な県大生らしい積極的な参加をいただき、展示開始から 3 日も経たずに 3 冊の展示書籍が貸し出され（おいちゃんはびっくりしたぞ）、その後も紹介映像資料の貸し出し希望が多数あり（おいちゃんは猛烈にうれしいぞ）、さらに名演小劇場で現在公開中の映画『私はあなたのニグロではない』が 6 月 22 日からミッドランドシネマ名古屋空港で公開が予定されていることを受けて、企画展示をさらに充実させることになりました。

展示書籍の追加にあたり、新たな展示資料について以下に簡単なガイドを用意しました。また、関連の映像作品ガイドも最後に少しだけ付記しています。

１．タナハシ・コーツ『美しき闘争』
展示後すぐに貸し出された『世界と僕のあいだに』(2015)の作者が 2008 年に出版した自叙伝。タイトルにある「闘争=struggle」はむしろ「葛藤=軋轢=conflict」と読むべきかもしれません。というのも、それは社会的・歴史的状況に置かれた黒人のアメリカに対する闘争のみならず、それによってもたらされる心理的葛藤がテーマでもあるからです。本書の魅力はそのスタイルにもあります。タイトルがラッパーのタリブ・クウェリによる曲名に由来することからも明らかなように、コーツはポップカルチャーの影響下にある語法やリズムを用います。W. E. B. デュボイスやブッカー・T・ワシントンといった黒人知識人を参照にしながら、ヒップホップのようなストリートの哲学も意識する思考のダイナミズムをぜひ堪能してみてください。

２．マシュー・タイガー『NAS イルマティック』
ストリートの哲学といえば、このラッパーNAS です。NAS をテーマにした本書からは、いかなる音楽であろうと何らかの政治的・社会的・歴史的状況から逃れ得ることはできず、それを明らかにしているのがヒップホップであることが明確に示されます。 “Straight up shit is real and any day could be your last in the jungle(嘘みたいなこの状況はガチでリアル、こんなジャングルじゃいつ死んでもおかしくない)”、“I woke up early on my born day, I’m 20 it’s a blessing（誕生日早朝に目が覚めた。二十歳になれたなんてミラクル）”といった厳し

い現実を生きるラッパーが、その状況を引き受けながら紡ぐ言葉（たとえば“Life is a bitch, then you die”）がフレッシュである理由が、読み終えたあなたには理解できるはずです

３．ニール・ホール『ただの黒人であることの重み: ニール・ホール詩集』
反ポエムとでもいいましょうか。なんとなく俗情に訴えかけなんとなく気持ちよくさせる広告コピーのような言葉が「詩」であるかのようなイメージが広がって久しいわけですが、そんなものにかまってはいられない切迫した状況を生きる人物の詩ですよ。「責任を押しつける場が白人に必要なとき、嘲り騙すカモが白人に必要なとき」必要とされるのが「ニガー」と記す詩のタイトルは「死ぬまでニガー」。詩集ではありますが、ヒップホップの歌詞にも通じる表現で、黒人文化の連続性がよくわかります。

４．ジョン・ルイス他『MARCH』（全３巻）
原作者はマーティン・ルーサー・キング Jr.やマルコム X に比べ知名度が低いものの、公民権運動において重要な役割を果たし、現在は下院議員を務め、オバマ前大統領から自由勲章を授与された人物です。彼の体験談をグラフィックノベルとして表現し、大きな物語とは異なる公民権運動の細部が良く理解できる作品となっています。

５．ウェルズ恵子『魂をゆさぶる歌に出会う――アメリカ黒人文化のルーツへ』
県大にもダンス・サークルがあるようで、練習なさっている姿が目に入ると私もポジティヴなヴァイブスに満たされます。ところで、いま流行しているダンスの「フレックス」やひと昔前に流行った「ムーン・ウォーク」などが奴隷制時代に由来する文化形態だとご存じでしょうか？本書は、ゴスペルやブルーズなどの音楽、そしてダンス等の黒人文化の起源を歴史的・社会的条件から捉え直して、文化へのより深い理解を促してくれます。半日で読み終えられる分量なので、ぜひお手にとってみてください。

６．最後は諸映像作品(DVD＆Blu-ray)です。いくつかピックアップして紹介します。
- 『マルコム X』は彼の一生を追い、その複雑な人格形成と主張を余すところなく描ききっています。その後を継いだ運動を扱った『パンサー』と一緒にどうぞ。
- 『グローリー』は原題が *Selma* で、上記４の『MARCH』第３巻と同じ出来事を扱っています。それはマーティン・ルーサー・キング Jr の公民権運動の一部（モンゴメリー行進）なのですが、そこからはキング Jr の戦略の本質が見て取れます。
- 『マンディンゴ』は白人の監督が奴隷制時代の白人による黒人の扱いをテーマに撮った映画で、のちにクェンティン・タランティーノが監督した『ジャンゴ』は本作のコミカルな焼き直しとも言えます。
- 『フルートベール駅で』は 2009 年に実際に起きた警官による黒人への不当な暴力・殺害事件を、事件時に実際にスマホで撮られた映像を取り入れながらドラマ化した映画です。監督はマーベル映画『ブラックパンサー』を撮ったライアン・クーグラー！主演は同映画で悪役エリック・キルモンガーを演じたマイケル・B・ジョーダン!!
- 最後はビヨンセのヴィジュアルバム(CD+DVD) *LEMONADE*。DVD 映像で個人史と黒人史を象徴的に重ねてゆく手腕は圧巻です。張り巡らされた映像的隠喩について詳しく知りたい希望者には、視聴後に解説して差し上げますのでご一報ください。